

あがたい 縣居翁・賀茂真淵は郷土の誇り、日本の宝

生誕祭のご案内

真淵は、元禄十年（一六九七）三月四日、遠江国敷智（ふち）郡浜松庄伊場村（もと岡部郷）で誕生しました。今年は生誕三二〇年に当たります。当会では、この節目の年に「生誕祭」を計画いたしました。「生誕祭」終了後に講演会を開催いたします。

日 時 三月四日（土） 午前十時

場 所 縣居神社

講演会 「賀茂真淵と万葉集」

講師 顕彰会会長 山下智之

ご参詣いただける方は、事前に電話またはFAXにて、ご連絡くださいますようお願い申し上げます。

【お問合せ】TEL/FAX:053-453-3401

京都下鴨・上賀茂神社（葵祭）や石清水八幡宮（石清水祭）のように、国家行事としての位置づけがなされた神社の祭礼は、奈良県春日大社の「春日祭」もその一つでした。
かつては二月・十一月の上申日（当該月、最初の申の日）に行われました。明治十九年以後は新暦の三月十三日に統一されました。
真淵は、「政藤」の名で、戦国期に衰退していた「春日祭」を復興しようとした心がありました。

春日祭の歌

会長

山下智之

享保七年（一七二二）壬寅年会始

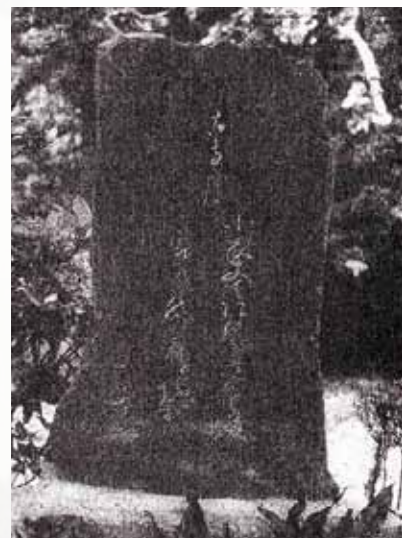
二月十一日

春日祭

神まつる けふは宮人 乗駒の
声もにぎはふ 春日野の原

浜松近郊の真淵歌碑

浜松市西区入野町・臨江寺



古寺月

小夜（さよ）更（ふ）けて
松風高き山寺の
月はうき代の
塵も曇らず

春栖（はるずみ）

享保一四年（一七二九）真淵三三歳の八月七日、杉浦国頭・柳瀬方塾等八名で佐鳴湖を船で進み対岸の臨江寺の歌会で詠んだ。当時は春栖と称していた。

歌意は「夜が更けて松を吹く風の音も高い。山寺の月は、憂き世の汚れにも曇らないで美しく輝いている」となるうか。
真淵の憂悶は、二八歳の秋最愛の妻と死別し、涙の乾かぬうちに、母方の縁続きとは言え、学問とは遠い梅谷本陣に婿入りした激変であろうか。
真淵は、独り憂愁を抱え込むのではなく、和歌会に参加し、師につきその作法に従って学び、「歌人」としての資質を高めていった。

賀茂真淵翁を知ろう (2) 真淵のふるさと

宝永絵図

真淵 10 歳前後



県居小学校刊行の「県居読本」は「浜松市史料編 2」の宝永絵図に基づいている。「町割」がはっきりして、「村」と区分される・「町」は天神町～上新町（現在の菅原）の 23 町、家数は 1495 軒と記される

- ① お城
- ② 五社大明神 諏訪大明神
- ③ 東鴨村 家数 13 軒。宝永絵図には「定助」とある。鴨江寺は、金山神社あたりから根上がり松と広大だった。
- ④ 「鳥居坂」であろう。内山真龍の「遠江国風土記伝」は「伊場に在り、岡部鴨の神社大鳥居の所なり」と記す。（現在、地元では、グランドホテル横に出る坂を、鳥居坂又は将監坂と呼んでいる）
- ⑤ 伊場村 家数 96 軒。宝永絵図には「定助」とある。文永 11 年（1274）の賀茂神社創建の際には数家族が移住した。
- ⑥ 谷川 昭和初期まであった。
- ⑦ 雄踏街道であろう

（注）「定助」宿場に常置した人馬で足りない際、近在の村が供出した。

臨江寺

（りんこうじ）

静岡県浜松市西区入野町 20013-5

朱塗りの正面山門が映える。佐鳴八景の少林山秋月の舞台。

真淵の歌碑の隣に、松尾芭蕉研究の俳人五升庵蝶夢のむら松やみどり立つ中のふじの山の句碑が建つ



賀茂真淵記念館から資料提供いただきました。